

令和6年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立馬込東中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 単元ごとに小テストを行い、語彙力や新出文法の定着を図った。普段の授業の中での言語活動や書く活動をパートごとに取り入れ、表現力向上に取り組んだ結果、全国平均よりも1年生は、5.4ポイント上回り、2年生は6.3ポイント上回り、3年生は7.7ポイント上回った。

(2) 課題

- ・ 1年生は、基礎の学力を維持しながら、応用力を身に付ける必要がある。また、場面に応じた対話の理解や与えられた条件での英文を書く力の伸長を図る。読むことに関しては、長文の要点をつかむことができるよう、指導していく必要がある。
- ・ 2年生は、基礎の学力を維持しながら、さらに活用能力を身に付ける必要がある。特に書くことに関しては、既習事項で得た知識を場面や状況等に応じて、自分で活用した英作文が書けるよう指導していく必要がある。読むことに関しては、教科書本文のプリントや音読練習を中心に様々な英文を読み取る力がつくよう、指導していく必要がある。
- ・ 3年生は、語彙の知識・理解に課題が見受けられる。言語に対する知識の不足が窺えるので、少人数によるきめ細かい指導を継続して行っていく。新出事項の定着だけでなく、既習事項の振り返りや確認を重点において、様々な英文を読み、書き、聞き、話す場面に生徒をふれさせて、語彙力の伸長を図る。対話形式の言語活動だけでなく、英語の長文を読む教材を充実させて生徒の語彙力の向上を図る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	全体として、目標値から10.3ポイント上回っている。領域別に見ると、読むことが、聞くこと、書くことに比べて正答率が低い。すべての観点で目標値を上回っている。		
第2学年	全体として、目標値から7.3ポイント上回っている。領域別に見ると、書くことが、読むこと、聞くことに比べて正答率が低い。すべての観点で目標値を上回っている。	全体として、目標値から10.4ポイント上回っている。領域別に見ると、聞くこと、書くことが、読むことに比べて正答率が低い。	
第3学年	全体として、目標値から8.1ポイント上回っている。領域別に見ると、「場面に応じて書く英作文」以外の全てで目標値を上回っている。「知識・技能」、「思考・判断・表現」ともに目標値を上回ったが、「主体的に学習に取り組む態度が」、0.3ポイント目	全体として、目標値から13.1ポイント上回っている。領域別に見ると、すべての領域で目標値を上回っている。聞くことは書くことよりも、書くことは読むことよりも正答率が高い。観点別にみても、すべての観点で目標値を上回っている。思考・判断・表	全体として、目標値から12.4ポイント上回っている。領域別に見ると、すべての領域で目標値を上回っている。聞くことは書くことよりも、書くことは読むことよりも正答率が高い。観点別にみても、すべての観点で目標値を上回っている。思考・判断・表

	標値を下回った。	現の観点がその他の観点に比べて低くなっている。	現の観点がその他の観点に比べて低くなっている。
--	----------	-------------------------	-------------------------

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値よりも11.4ポイント上回っている。できること、できないことの会話についての聞き取りの正答率が低い。	目標値よりも8.5ポイント上回っている。日常生活についての対話（時間や行動、道案内）の聞き取りの正答率が低い。また、条件作文の正答率が低い。	目標値よりも1.8ポイント上回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値よりも8.2ポイント上回っている。対話を聞き、概要を捉えて、適切に応答している会話についての聞き取りの正答率が低い。語形・語法・語彙の知識・理解の問題の正答率が低い。	目標値よりも6.3ポイント上回っている。対話を読み、話の流れから、問われている内容を理解する問題と、メールを読んで、その内容を理解する問題の正答率が低い。	目標値よりも4.9ポイント上回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値よりも11.6ポイント上回っている。語彙の知識・理解の問題の正答率が低い。	目標値よりも3.6ポイント上回っている。「場面に応じて書く英作文」の正答率が低い。	目標値よりも0.3ポイント下回っている。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元ごとに小テストを実施し、語彙・文法の定着を図る。教科書本文を基本として、様々な題材の長文を取り入れる。また、その際、長文の要点をつかめるように指導する。	既習事項を使用して自分の力で伝えたいことが表現できるように指導していく。与えられた場面に応じて、まとまりのある文を書けるような活動を各単元に取り入れる。	普段の授業の中で、積極的に英語を使える雰囲気をつくり、英語での対話や活動を楽しめるよう声かけをする。また、自分の学習をしっかりと振り返らせる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元ごとに小テストを、夏休み明けにはスペリングコンテストを実施し、単語・語形・語法の定着を図る。既習の単語や熟語を適切に使えるように使用教材の内容を工夫していく。	既習事項を使用して、自分の力で長文の内容を理解できるように指導していく。また、教科書本文のプリントを使用した精読や様々なジャンルの英文の音読活動等を取り入れた後に、関連する	協同による学びあいを通して、普段の授業内で、失敗を恐れずに学ぶ姿勢や、英語での積極的なコミュニケーションができる雰囲気をつくる。内容を理解する際には、受け身ではなく、自分で考えながら理解し

	英作文を書くことで、生徒が自分の考えを英語で書けるように指導していく。	ようとする気持ちを育てる。また、パフォーマンステストでは必ず自己評価で自分の学びを振り返る機会をつくる。
--	-------------------------------------	--

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語彙の知識・理解に課題が見受けられるので、単元ごとに単語・熟語テストを実施し、語彙・文法の定着を図る。そのうえで、既習の単語や熟語を適切に使えるように指導していく。	「場面に応じて書く英作文」に課題が見受けられる。テーマに応じた英作文やスピーチ活動を通して、自分の考えや意見を表現させる機会を設けていく。その際、新出事項だけでなく、既習事項の理解も十全に確認する。	新出事項の解説では、生徒が興味・関心をもてるような教材や課題を用意する。また自信をもって表現できる言語活動を設定し、個に応じた指導を継続的に行っていく。